

議決権行使レポート

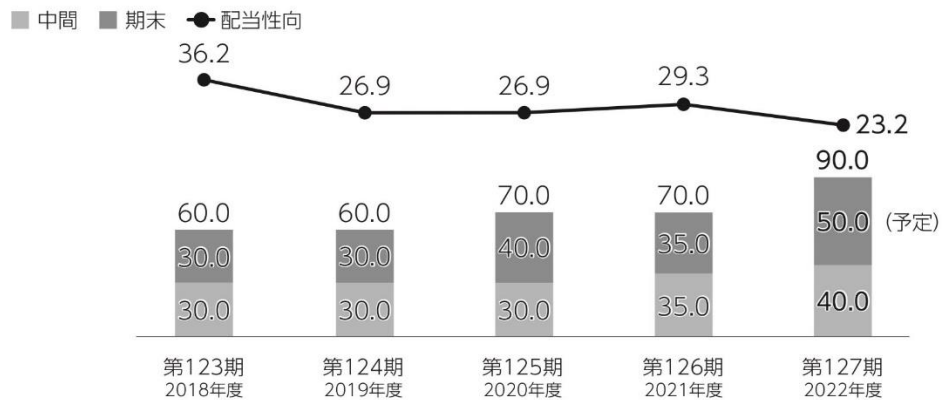
証券コード 5602

会社名 栗本鐵工所

	賛成	反対	棄権
第1号議案 剰余金処分の件	○		
第2号議案 取締役選任			
菊本 一高 氏	○		
新宮 良明 氏	○		
織田 晃敏 氏	○		
吉永 泰治 氏	○		
浦地 好博 氏	○		
丸谷 等 氏	○		
近藤 慶子 氏	○		
佐藤 友彦 氏	○		
澤井 清 氏	○		
第3号議案 監査役一名選任			
藤本 幸隆 氏	○		
第4号議案 補欠監査役二名選任			
澤井 幹人 氏	○		
道幸 静児 氏	○		

上記の推奨をした理由

ご参考 1株当たり配当金(円)と配当性向の推移(%)



栗本鐵工所 HP より

<第1号議案 剰余金処分の件について>

まず、同社の今年度の一株当たり配当金は中間が40円、期末が50円で当期2022年の年間配当金は一株当たり90円となる。参考として、過去5年間の一株当たり年間配当金は2018年60円、2019年60円、2020年70円、2021年70円であり、今年度の配当金は比較的大幅に増加していることが分かる。次に配当性向を検討してみると、今年度の配当性向は23.2%である。過去5年間の配当性向の推移は、2018年から順に36.2%、26.9%、26.9%、29.3%であるので、今年度は最近の5年間で初めて減少したことが分かる。

<第2号議案 取締役選任について>

菊本氏から丸谷氏までの六名が社内取締役であり、そのうち新任は丸谷氏のみである。社外取締役は近藤氏、佐藤氏、澤井氏の三名であり、三名とも再任である。今年の業績は各セグメントにおいておしなべて好調であり、一株当たり当期純利益は前年度比約1.6倍になっている。さらに今年度は新型コロナウイルスやロシア・ウクライナ戦争、物価上昇など経済情勢が不透明であったことを鑑みると、この時期に業績が上がったのは経営が成功したためであると考えられる。したがって経営陣には今後も期待できると判断できるので、再任の社内取締役である6名に関しては、取締役選任に賛成する。次に新任の丸谷氏については、2019年に栗本鐵工所のグループ会社である本山製作所代表取締役社長に就任し、収益向上に大きく貢献してきたことから選任に賛成する。最後に、社外取締役である近藤氏と佐藤氏について考察する。近藤氏は大学研究機関の事務局長や客員教授などを務めた経験があり、これまでも栗本鐵工所の社外取締役として実績を残してきたことから選任に賛成する。佐藤氏は稲畑産業株式会社で取締役を務めた経験があり、経営体制の充実化の確保とコーポレートガバナンスの強化に強みがあるので引き続き経営への客観的な助言を行うことが可能であると判断し、社外取締役として選任に賛成する。澤井氏は総合建設会社で主に土木の事業分野において、要職を経験しており、専門分野という強みが経営にも大いに役立つと考えられるので、選任に賛成する。

<第3号議案 監査役一名選任について>

現在の監査役である村田実氏は任期満了となるため、新任の藤本氏が選任候補者となっている。藤本氏は栗本鐵工所の複数の管理部門長やCSR推進室長などを歴任していたため、広い知見から独立して監査役を務められると判断されるため、選任に賛成する。

<第4号議案 補欠監査役2名選任の件>

澤井氏は富士銀行に勤めていた経験があり、栗本鐵工所の取締役の経験を活かし補欠監査役を任せられると考えた。道幸氏においても、監査法人の社員であったこともあり、中立の立場で社外監査役を務められると考えるので、選任に賛成する。